

経営比較分析表

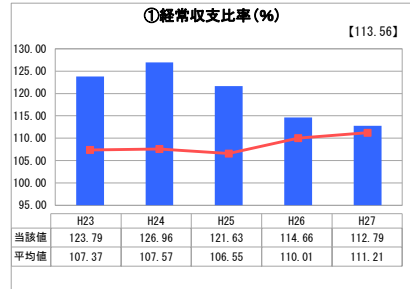
神奈川県 愛川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	70.44	68.07	2,070

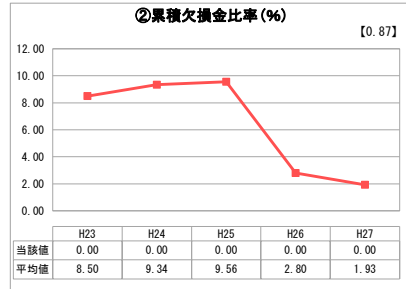
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
41,197	34.28	1,201.78
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
27,977	30.00	932.57

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成27年度全国平均

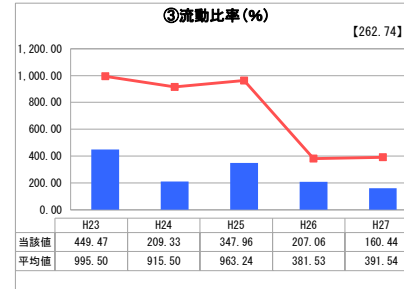
1. 経営の健全性・効率性



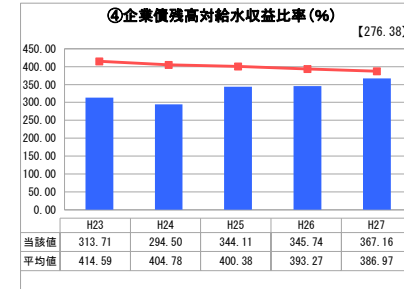
「経常損益」



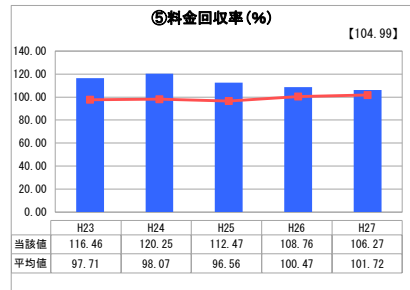
「累積欠損」



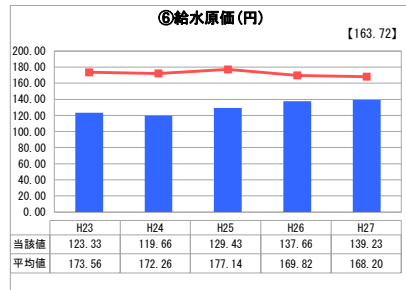
「支払能力」



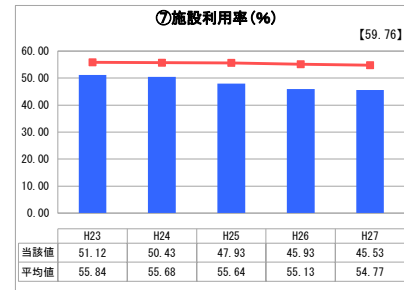
「債務残高」



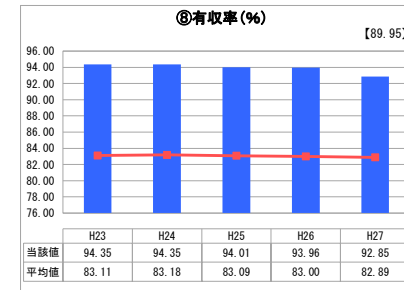
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

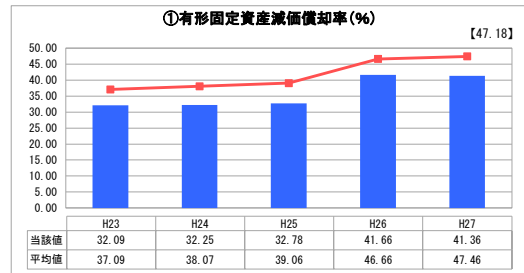


「施設の効率性」

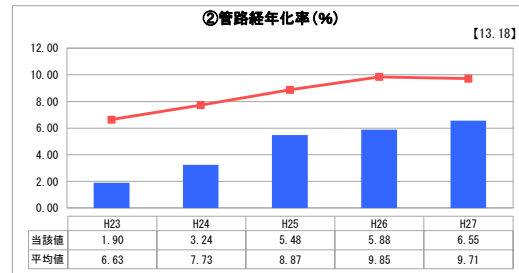


「供給した配水量の効率性」

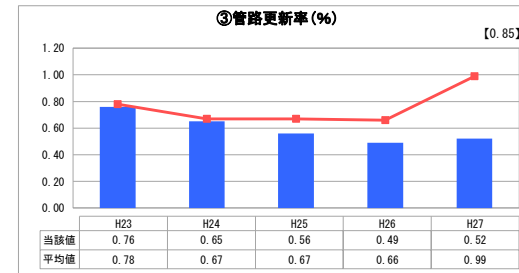
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・ 経常収支比率が100%を越え、欠損金も0であることから健全な経営状態にあります。
- ・ 料金収入の減少が続いており、経常収支比率は毎年低下しております。また、収入の減少や設備投資の影響で流動比率も平均値を下回る数値で減少しております。
- ・ 給水原価は設備整備や更新のため、減価償却費が増加して増加しつつあります。
- ・ 企業債残高対給水収益比率は、近年の設備投資費用として借入れた企業債の増加と給水収益の減少により上昇しつつありますが、平均値は下回っております。
- ・ 有収率は、平均値を大きく上回っておりますが、近年は若干の低下が続いております。
- ・ 施設利用率が平均より低く、50%を下回っております。今後の設備投資や更新などにつきましては、適正な規模を検討しつつ、設備の整理縮小も含めて検討する必要があります。

2. 老朽化の状況について

- ・ 有形固定資産減価償却率、管路経年化率ともに平均値より低い数値になっております。これは、他の団体よりも管路整備の最盛期が遅いため、老朽化の進行が現時点では緩やかになっていると分析されます。
- ・ 管路の更新率が平均値より低い数値にありますことから、計画的な管路の更新を推進する必要があります。

全体総括

- ・ 良好な経営状況から急速に厳しい経営状況にかわりつつあります。
- ・ 料金については、回収率が100%を上回り、適切な収入の確保できておりますが、平成10年から据置が続いており、経常収支比率の低下も続いていることから見直しが必要な時期が近づいております。
- ・ 管路をはじめ施設の老朽化も確実に近づいており適切な更新需要を把握する必要があります。
- ・ 施設の利用率が低いことから適正な規模を検討し設備の整理縮小も含めて検討する必要があります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。